

学校法人松原学園 幼保連携型認定こども園ひばりが丘幼稚園
令和4年度「学校評価」実施内容報告

令和4年度「学校評価」の実施内容を下記の通り公開します。

I. 実施概要

・対象者内容 令和4年度在園児保護者及び職員

対象者		対象者数	回収者数	回答率	実施期間
保護者	全学年	173名	157名	91%	令和5年2月3日～2月13日
職員		28名	28名	100%	令和5年2月3日～2月13日

◎保育・教育目標『ひとりあるきのできる子ども』

- じょうぶな子 — 何でも食べて 元気に遊び 健康な心と体を育てる
- かんがえる子 — 考える喜びを知り創造性のある実践力を身につける
- やさしい子 — 仲良く力を合わせ思いやりの心 いたわりの気持ちを育てる
- がんばる子 — 元気よく挨拶ができ 最後までやり遂げる気持ちを育てる
- はたらく子 — 土に親しみ勤労の喜びと手伝いの出来る態度を身につける

◎令和4年度重点事項

- ・友達と一緒に自己発揮しながら存分に遊び込み、満足感や達成感を味わう経験をもたせる。
- ・乳幼児期の発達過程を考慮し、子ども同士の遊び（またはひとり遊び）を見守ったり、子どもの遊びに寄り添いながら、思いや願いを汲み取る等子ども理解を深める。
- ・「明日もまたやりたい、遊びたい」と思えるような保育の展開になるよう連携を図る。

II. 保護者アンケート

※質問について、あてはまると思われる個所に○印をつけてください。

A：そう思う B：やや思う C：あまり思わない D：思わない

【園の運営について】

	内 容	保護者				職員			
		A%	B%	C%	D%	A%	B%	C%	D%
1	保育・教育方針や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	81	18	1	0	70	30	0	0
2	一人一人の個性を大切にし、生き生きと意欲的に楽しい生活が送れるよう努力している。	83	17	0	0	70	30	0	0
3	生活の中で、挨拶や身の周りの始末など、基本的な生活習慣を身につけさせている。	91	9	0	0	70	30	0	0
4	子どもの年齢（学年）に応じて適切に対応し、よく理解して保育をしている。	88	12	0	0	41	59	0	0
5	園行事を子どもの育ちに応じて取り組んでいる。	91	7	2	0	84	15	1	0
6	子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを十分行っている。	89	9	2	0	84	16	0	0
7	困った事や気になることがあった時に、相談できる環境づくりに努めている。	80	17	3	0	73	24	3	0
8	子どもが園で怪我をしたり病気になったりした場合に適切に対処している。また、適切な健康に関する指導や感染予防対策に努めている。	80	17	3	0	69	30	1	0

【保護者の方が感じられていることについて】

	内 容	A%	B%	C%	D%
1	子育ては楽しい。	73	24	3	0
2	子どもと触れ合う時間を大切にしている。	69	30	1	0
3	子育ての相談相手（協力者）がいる。	81	15	3	1
4	お子さんに規則正しい生活を心掛けている。	52	45	2	1
5	園の教育保育活動をとおして、一緒に子育てしようとしている。	75	25	0	0

Ⅲ. 総合的な評価

『ひとりあるきのできるこども』<じょうぶな子・かながえる子・やさしい子・がんばる子・はたらく子>を保育・教育目標とし、乳児組、幼児組共に日々の保育へ臨んできた。幼保連携型認定こども園として、早くも7年が過ぎようとしているが、新型コロナウイルス感染拡大防止措置を取りながらの園生活はまる3年続いた。感染状況においては、随分と落ち着いてきたように感じられるが、まだ油断の出来ない状況である。加えて幼児を取り巻く心痛むような事件や事故があり、そのたびにマニュアルを確認したり職員間の連携を重視してきた。人間である以上、ヒューマンエラーはつきものだが、人間の『眼』で確認することは基礎基本であり、怠ってはならない事と捉え自己防止に徹底していきたい。

アンケート自由記載においては保護者より多くのご感想、ご意見を頂き有難く感じた。園に対する関心の高さから、多くの方々に支えて頂いていることを実感することが出来た。

全体的に高評価となったことは、職員のやりがいや意欲にも繋がるものだが、しかしその反面、謙虚さをもって精進していくことが肝要である。

Ⅳ. 今後の課題

令和3年度の教員研修大会に向けての取り組みを土台として、引き続き園内研修に臨んできたが、職員の重点事項に掲げた内容について、深く検証していく必要があったことと、設問4(園の運営について)では、一人ひとりの子どもに応じた適切な保育を展開しているかについて、思わしい結果とは言えなかった為、個々の職員がさらなる研鑽を積んでいくことが、今後の課題として挙げられる。

また、教育課程を見直し改善を図りながら、特別支援教育のための園内研修を充実させていくことも新たな課題として次年度に向けて取り組んでいきたいことである。

コロナ禍での生活をとおして、改善した行事や日常の遊び方については、再度検討を重ねながら以前のような園の運営に戻していく事も考えていきたい。